

## 資料4 障害者のニーズに関する調査の概要

### 障害者アンケート調査

#### 1 調査の概要

##### (1) 調査の目的

本調査は、平成15年度の障害者計画改定にあたり、障害者対象の実態調査としてアンケート調査により、広くデータや意見を集め計画改定の基礎資料とする目的で実施した。

##### (2) 調査の方法と期間

配布・回収方法：郵送配布留置・郵送回収方式

配布時期：平成14年10月

回収時期：平成14年11月

##### (3) 調査の種類（3種類）

市内に住所を有する障害に基づく手帳所持者を対象として3種類の障害ごとに実施した。手帳所持者数10月1日現在

全体サンプル数 3,321件 全障害者手帳所持者 8,747人の約 1/3

身体障害者調査 2,405件

身体障害者手帳所持者 7,008人の約 1/3

知的障害者調査 428件

療育手帳所持者 1,251人の約 1/3

精神障害者調査 488件

精神障害者保健福祉手帳所持者 488人の全件

精神障害は、平成14年度から市が窓口になったことから全件を対象とした。

抽出については、障害部位、等級、年齢の区分において出現率を勘案し抽出した。

##### (4) 回収及び有効回答結果

対象者	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
身体障害者手帳所持者	2,405	1,693	70.4%	1,675	69.7%
療育手帳所持者	428	271	63.3%	268	62.6%
精神障害者保健福祉手帳所持者	488	291	59.6%	288	59.0%
計	3,321	2,255	67.9%	2,231	67.2%

## 2 調査対象者の状況

### (1) 障害者手帳所持者の状況

平成14年10月1日現在

調査対象の母体とした、平成14年10月1日現在の全(障害者)手帳所持者数は8,747人です。全手帳所持者を年齢別にみると、65歳以上(以下、高齢期といいます)が44.85%と最も多く、次いで40~64歳(以下、壮年期といいます)が32.48%となっています。

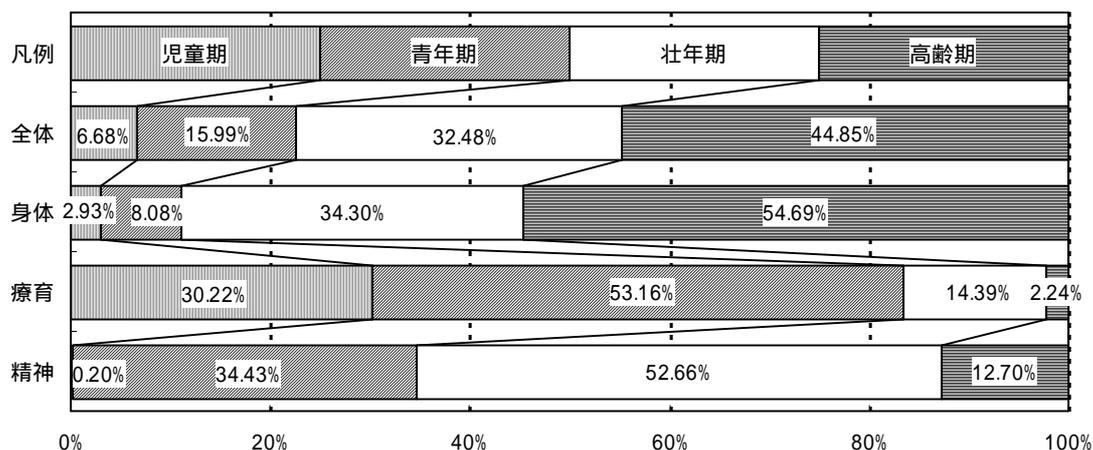
身体障害者手帳所持者を年齢別にみると、高齢期が54.69%と最も多く、次いで壮年期が34.30%となっています。

療育手帳所持者を年齢別にみると、18~39歳(以下、青年期といいます)が53.16%と最も多く、次いで18歳未満(以下、児童期といいます)が30.22%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者を年齢別にみると、壮年期が52.66%と最も多く、次いで青年期が34.43%となっています。

年齢構成別各障害者手帳所持者数(平成14年)

手帳区分	児童期	青年期	壮年期	高齢期	総数
手帳所持者	584	1,399	2,841	3,923	8,747
年齢区分構成比率	6.68%	15.99%	32.48%	44.85%	100.00%
身体障害者手帳所持者数	205	566	2,404	3,833	7,008
年齢区分構成比率	2.93%	8.08%	34.30%	54.69%	100.00%
療育手帳所持者	378	665	180	28	1,251
年齢区分構成比率	30.22%	53.16%	14.39%	2.24%	100.00%
精神障害者保健福祉手帳所持者	1	168	257	62	488
年齢区分構成比率	0.20%	34.43%	52.66%	12.70%	100.00%



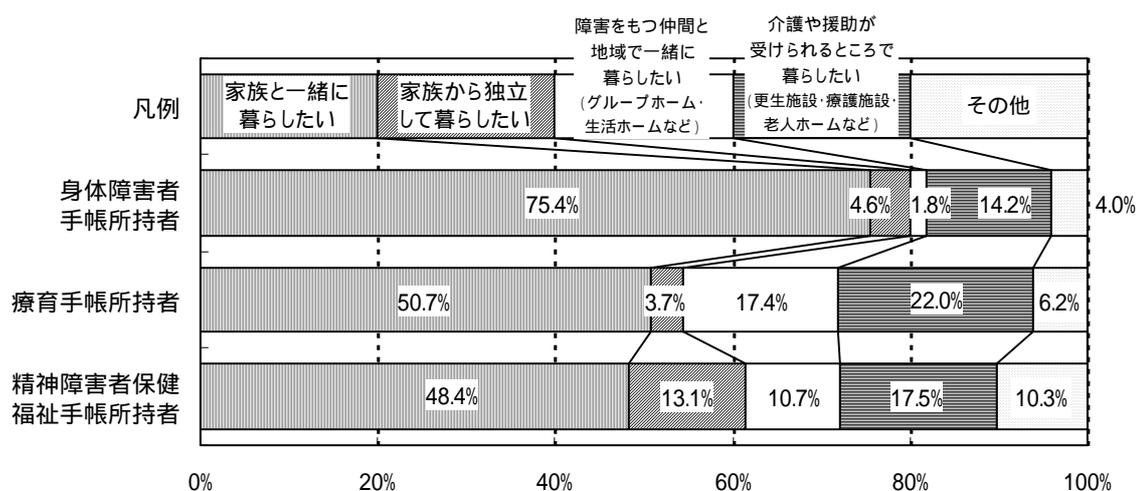
### 3 調査結果の概要

#### (1) 将来、どのように暮らしたいか

身体障害者手帳所持者の将来の暮らし方の希望をみると、「家族と一緒に在宅で暮らしたい」が75.4%と最も多く、次いで「介護や援助が受けられるところで暮らしたい」(療護施設・更生施設・老人ホームなど)が14.2%となっています。

療育手帳所持者の将来の暮らし方の希望をみると、「家族と一緒に在宅で暮らしたい」が50.7%と最も多く、次いで「介護や援助が受けられるところで暮らしたい」(療護施設・更生施設・老人ホームなど)が22.0%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の将来の暮らし方の希望をみると、「家族と一緒に在宅で暮らしたい」が48.4%、「介護や援助が受けられるところで暮らしたい」(老人ホームなど)が17.5%となっています。



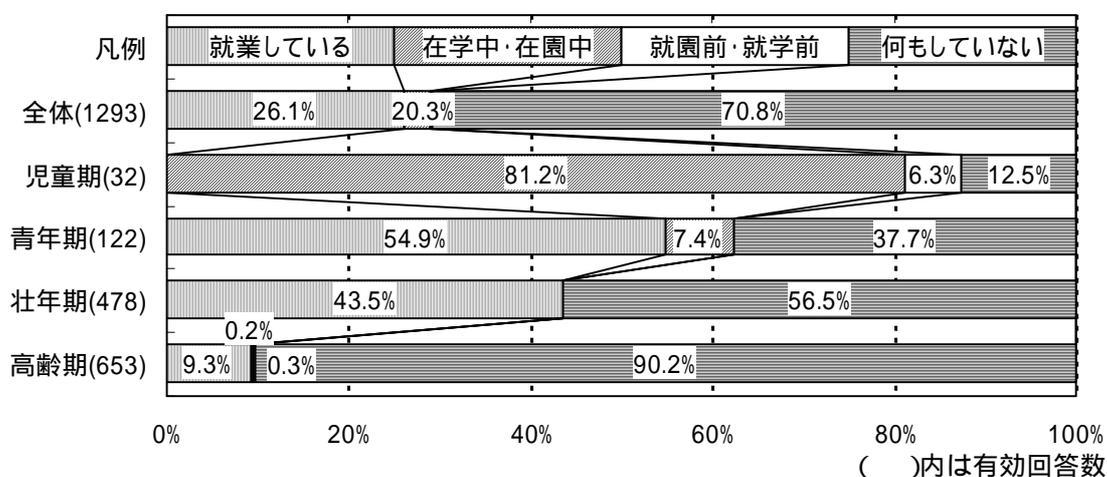
## (2) 就業・就学状況について

### 就業・就学状況

#### 【年齢別】

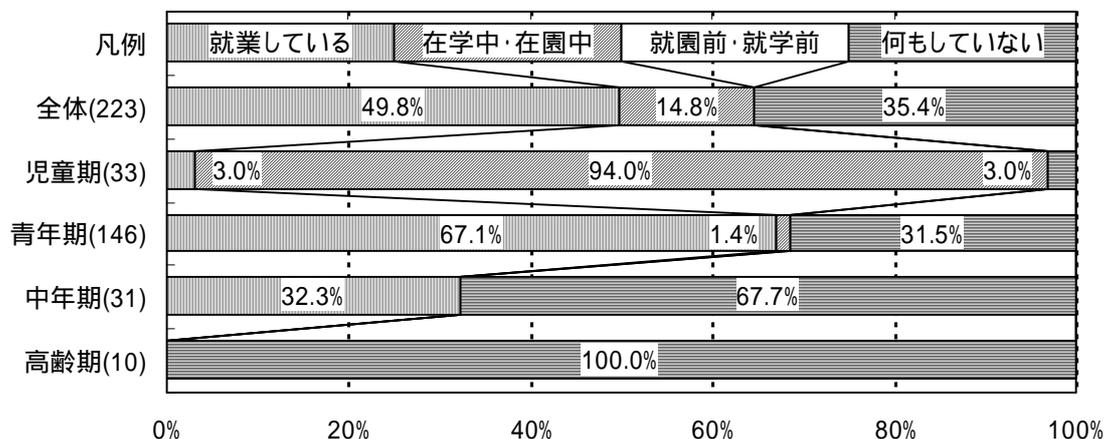
身体障害者手帳所持者の就業・就学の状況をみると、「全体として何もしていない」が70.8%と最も多くなっています。

年齢別にみると、「就業している」が青年期で54.9%と最も多く、次いで壮年期が43.5%となっています。また、高齢期においては、「何もしていない」が90.2%で最も多くなっており、加齢に伴い、何もしていない割合が多くなる傾向にあります。児童期においては、「在学中・在園中」が約8割となっています。



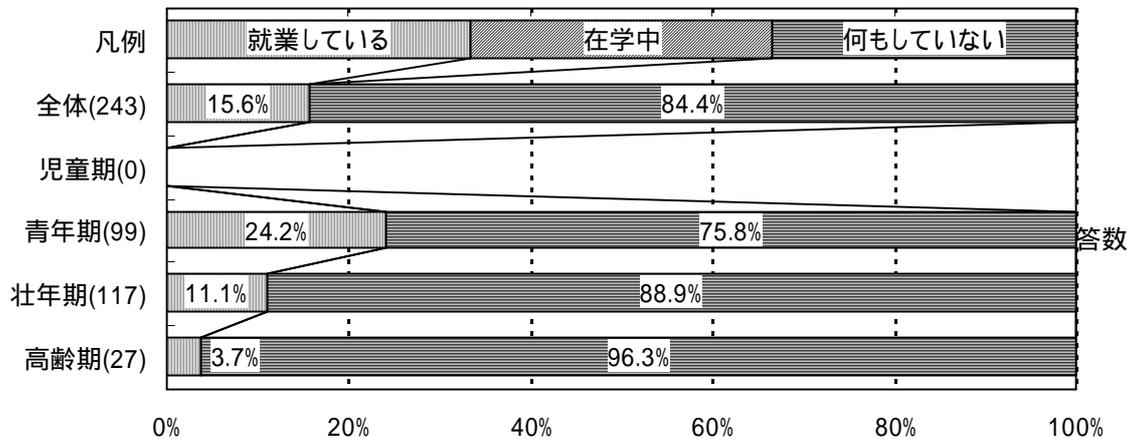
療育手帳所持者の就業・就学の状況をみると、全体として「就業している」が49.8%と最も多くなっています。

年齢別にみると、「就業している」が青年期で67.1%と最も多く、次いで壮年期が32.3%となっています。また、高齢期においては、「何もしていない」が100.0%となっており、加齢に伴い、何もしていない割合が多くなる傾向にあります。児童期においては、「在学中・在園中」が94.0%となっています。



精神障害者保健福祉手帳所持者の就業・就学の状況をみると、全体として「何もしていない」が84.4%と最も多くなっています。

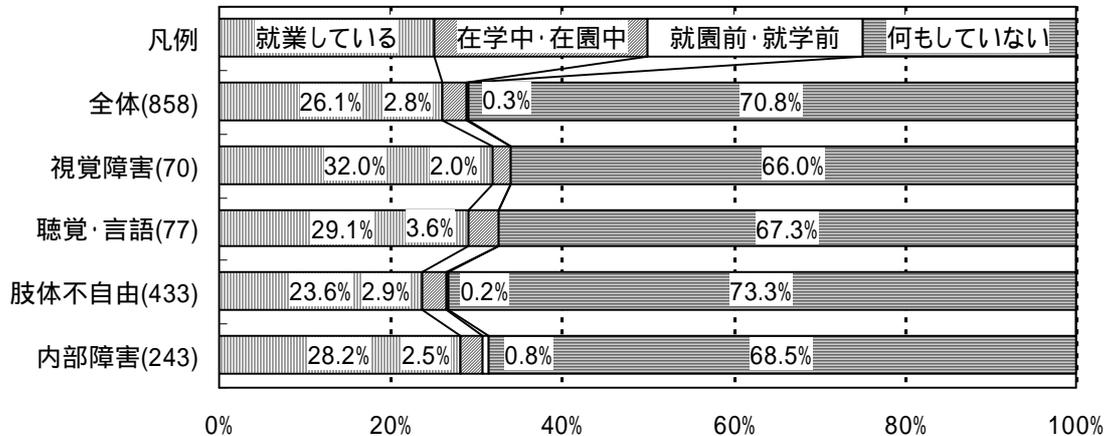
年齢別にみると、青年期、壮年期、高齢期ともに「何もしていない」が最も多くなっており、特に高齢期では96.3%となっています。



( )内は有効回答数

### 【身体障害区分】

身体障害者手帳所持者の就業・就学の状況を障害区分別にみると、就業している割合では、視覚障害が32.0%と最も多く、次いで聴覚・言語が29.1%、内部障害が28.2%の順となっています。



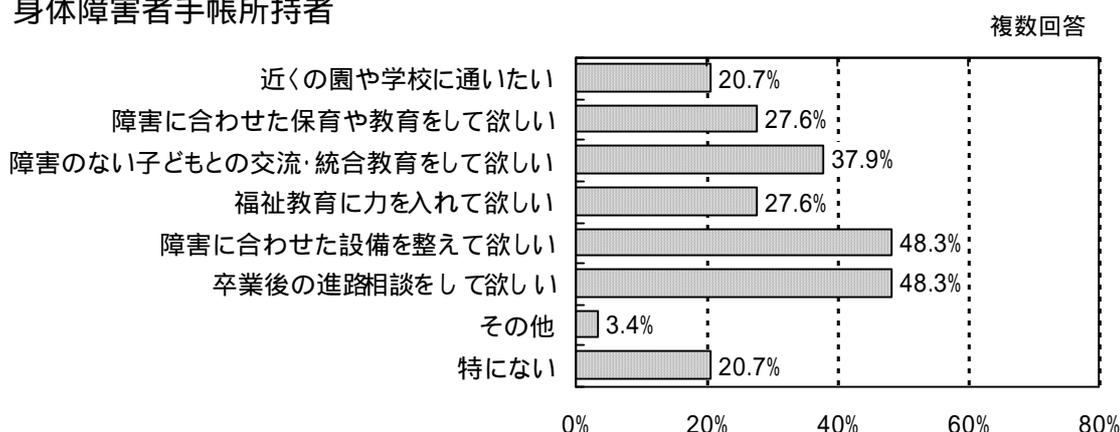
( )内は有効回答数

## 保育・教育・療育についての要望

### 【保育・教育】

身体障害者手帳所持者の保育・教育についての要望をみると、「障害に合わせた設備を整えてほしい」、「卒業後の進路相談をしてほしい」が48.3%と最も多く、次いで「障害のない子どもとの交流・統合教育をしてほしい」が37.9%となっています。

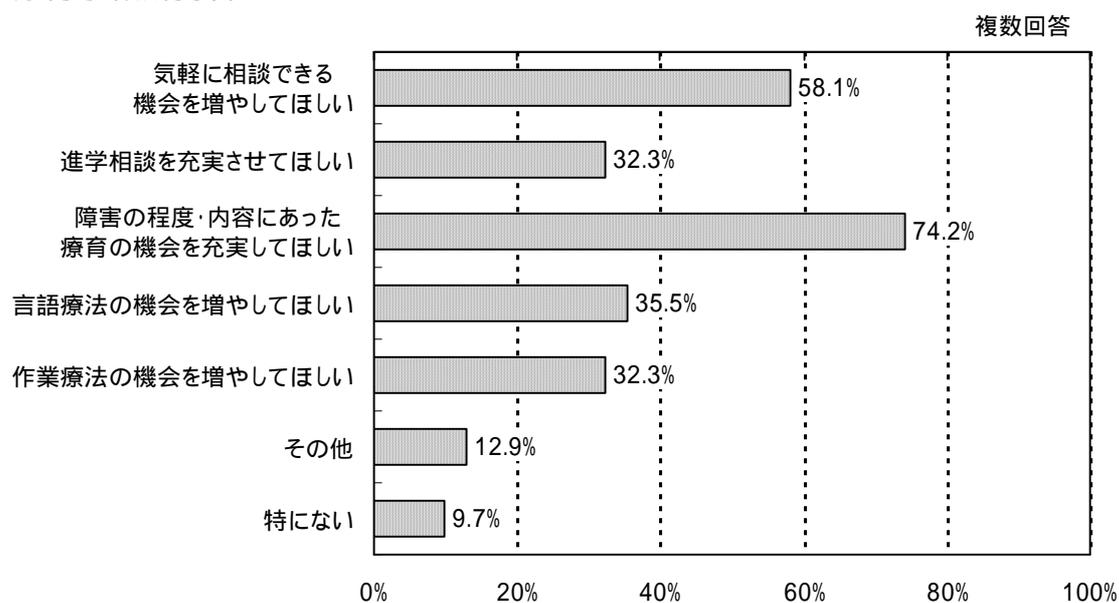
#### 身体障害者手帳所持者



### 【療育】

療育手帳所持者の療育についての要望をみると、「障害の程度・内容にあった療育の機会を充実してほしい」が74.2%と最も多く、次いで「気軽に相談できる機会を増やしてほしい」が58.1%となっています。

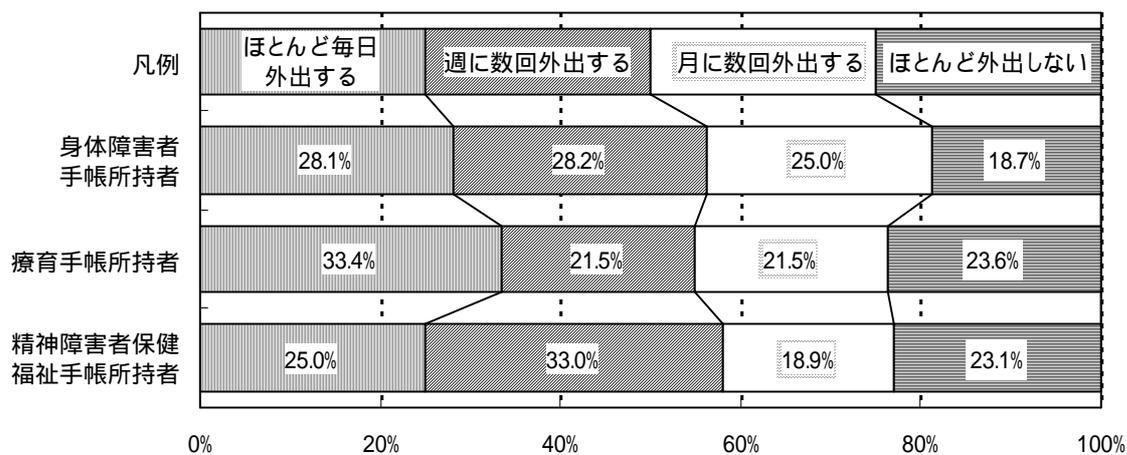
#### 療育手帳所持者



## (4) 外出について

### 外出頻度

外出頻度について、「ほとんど外出しない」が身体障害者手帳所持者で18.7%、療育手帳所持者で23.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者で23.1%と意外に多いことがうかがえます。「月に数回外出する」を合わせると、42~45%で、外出が少ない状況にあります。



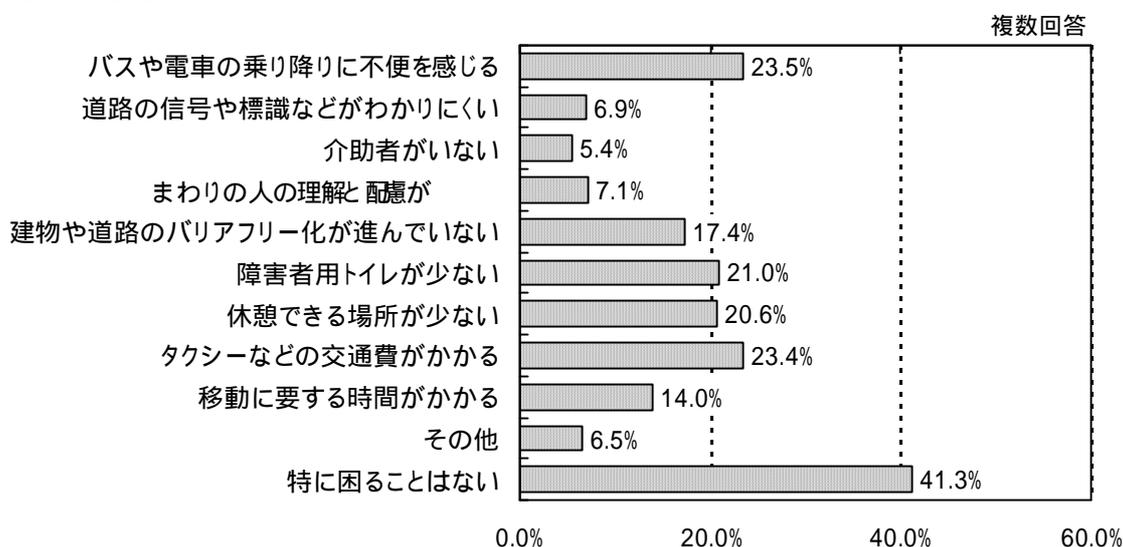
## 外出時の困りごと

身体障害者手帳所持者の外出時の困りごとをみると、「バスや電車の乗り降りに不便を感じる」が23.5%、「交通費がかかる」が23.4%、「障害者のトイレが少ない」が21.0%となっています。

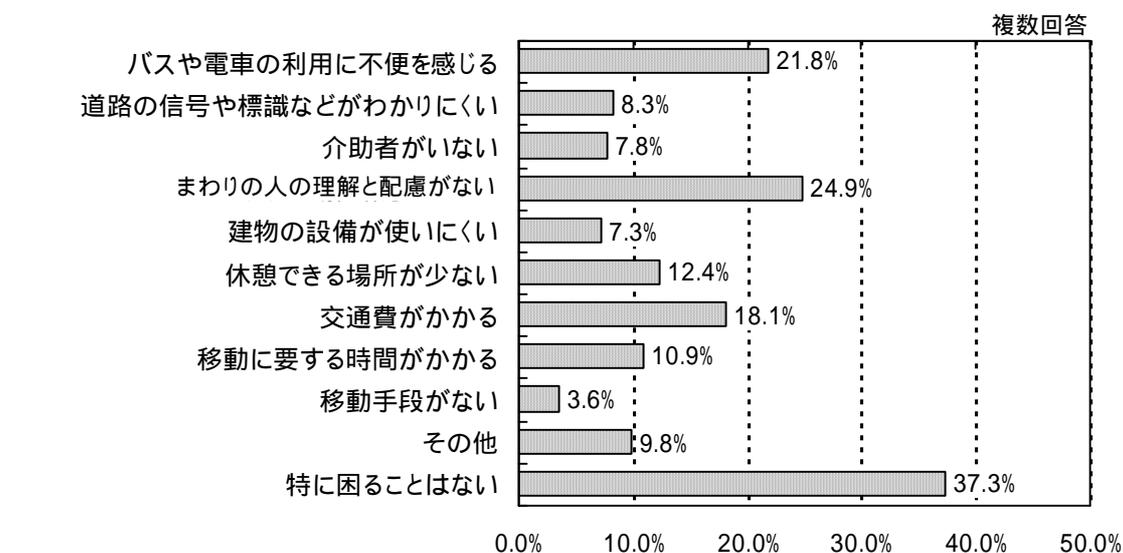
療育手帳所持者の外出時の困りごとをみると、「まわりの人の理解と配慮がない」が24.9%、「バスや電車の乗り降りに不便を感じる」が21.8%、「交通費がかかる」が18.1%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の外出時の困りごとをみると、「交通費がかかる」が34.9%、「外出するのが怖い」が20.7%となっています。

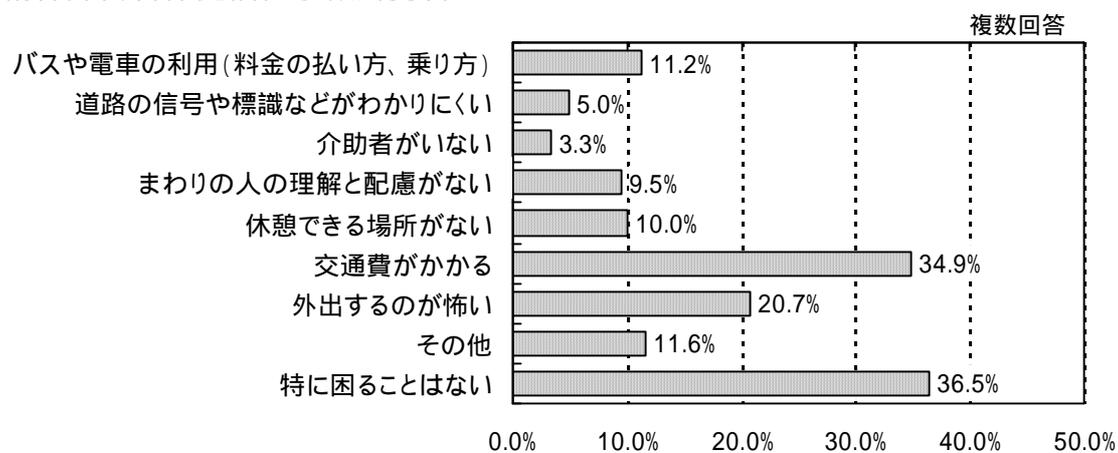
### 身体障害者手帳所持者



### 療育手帳所持者



## 精神障害者保健福祉手帳所持者



## (5) 災害や緊急時について

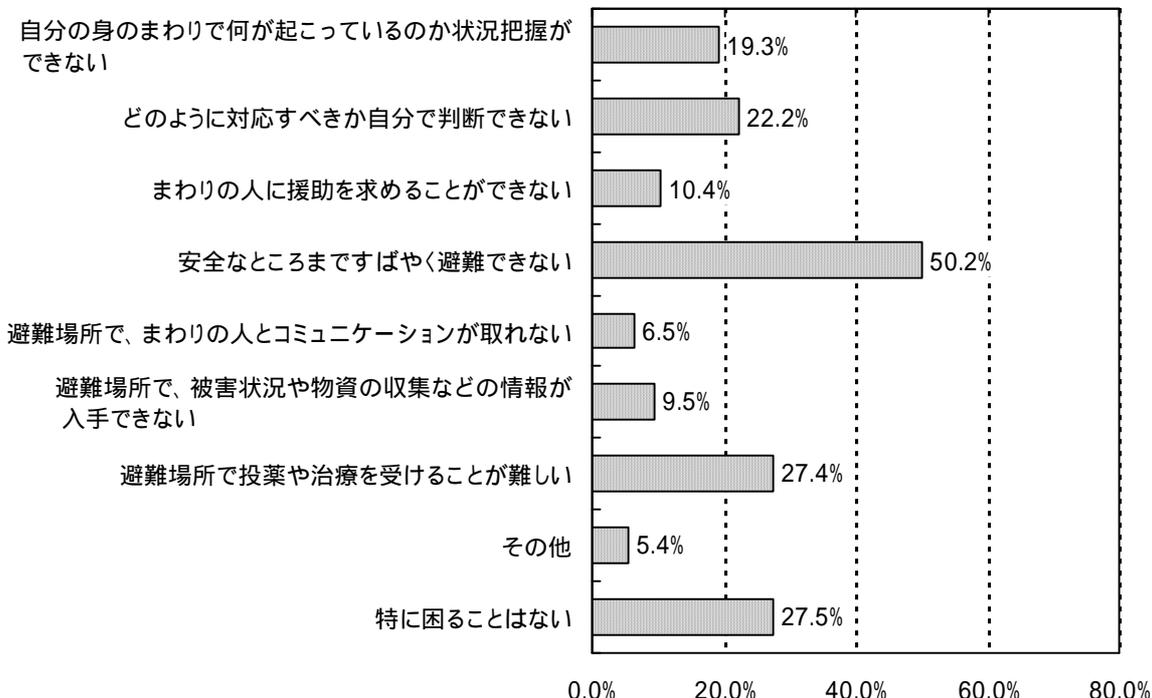
### 災害や緊急時に困ると思われること

身体障害者手帳所持者が災害や緊急時に困ると思われることをみると、「安全なところまですばやく避難できない」が50.2%と最も多く、次いで「特に困ることはない」が27.5%、「避難場所で投薬や治療を受けることが難しい」が27.4%となっています。

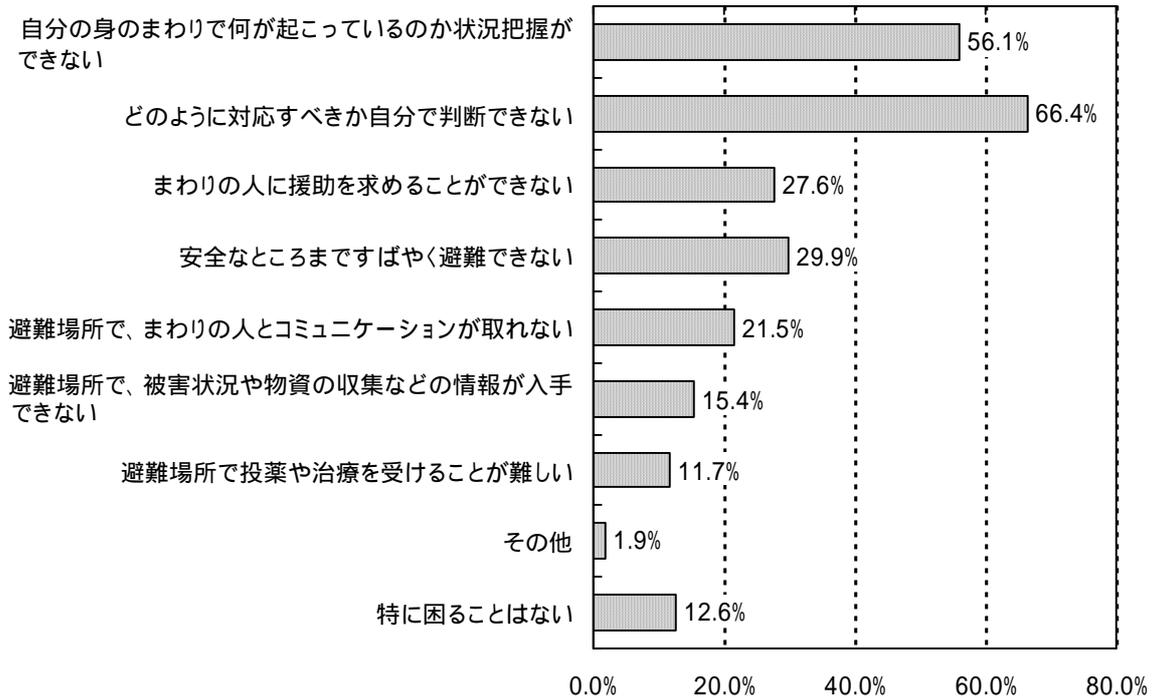
療育手帳所持者が災害や緊急時に困ると思われることをみると、「どのように対応すべきか自分で判断できない」が66.4%と最も多く、次いで「自分の身に何が起きているのか状況把握ができない」が56.1%、「安全なところまですばやく避難できない」が29.9%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者が災害や緊急時に困ると思われることをみると、「どのように対応すべきか自分で判断できない」が41.3%と最も多く、次いで「避難場所で投薬や治療を受けることが難しい」が37.5%、「避難場所でまわりの人とコミュニケーションが取れない」が25.8%となっています。

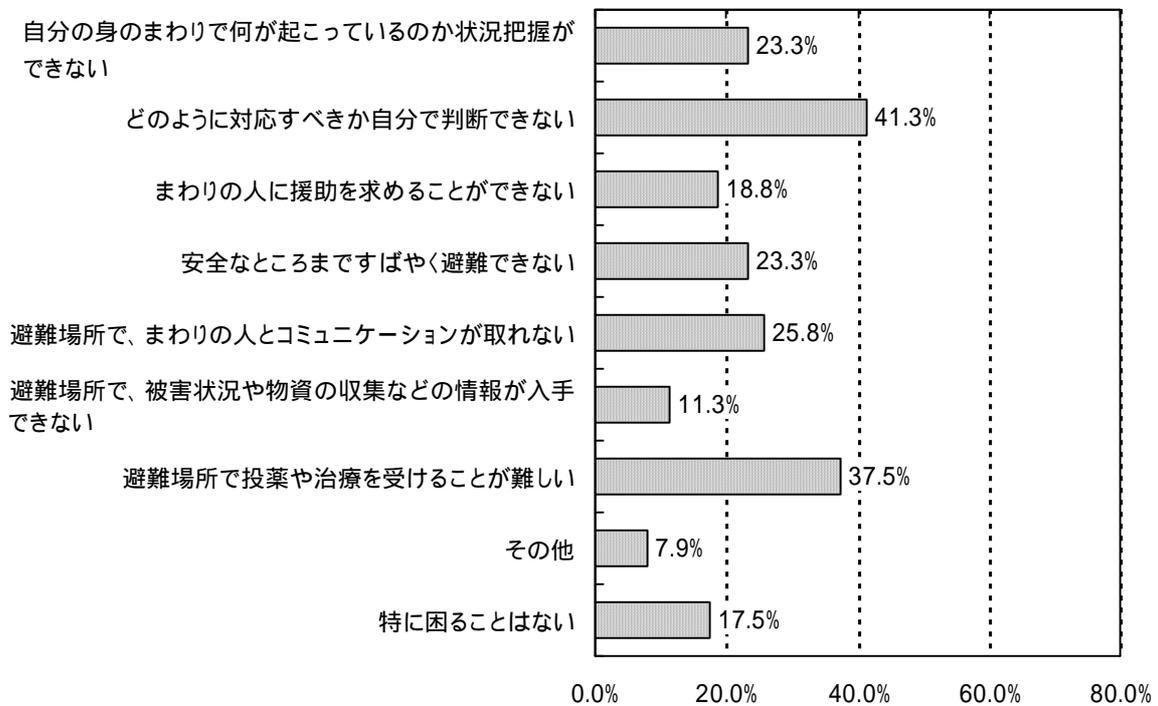
#### 身体障害者手帳所持者



## 療育手帳所持者



## 精神障害者保健福祉手帳所持者



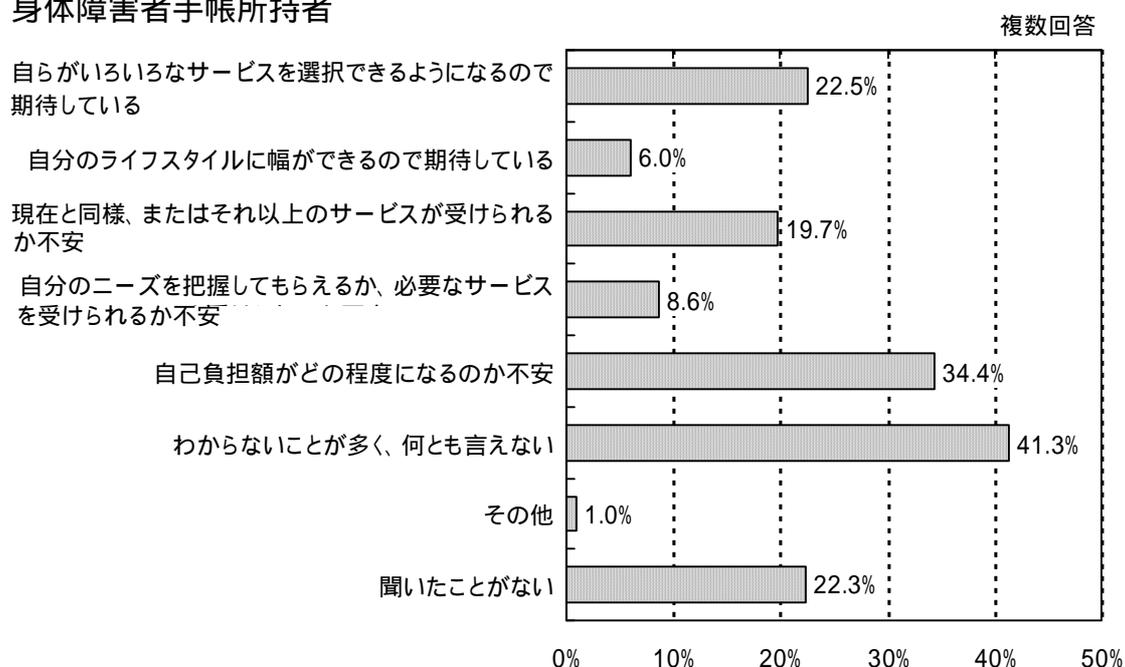
## (6) 支援費制度導入についての考え

身体障害者手帳所持者の支援費制度導入についての考えをみると、「わからないことが多く、何とも言えない」が41.3%と最も多く、次いで「自己負担がどの程度になるのか不安」が34.4%となっています。

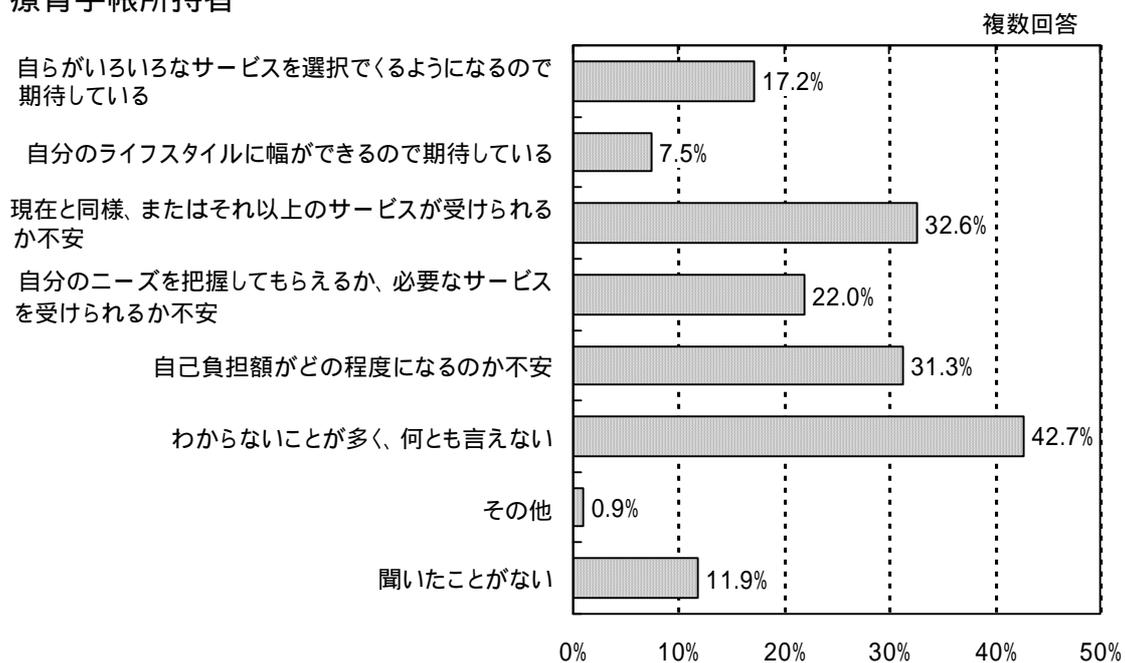
療育手帳所持者の支援費制度導入についての考えをみると、「わからないことが多く、何とも言えない」が42.7%と最も多く、次いで「現在と同様、またはそれ以上のサービスが受けられるか不安」が32.6%となっています。

制度がスタートする前に実施しているため、わからないことや不安が多くなっています。

### 身体障害者手帳所持者



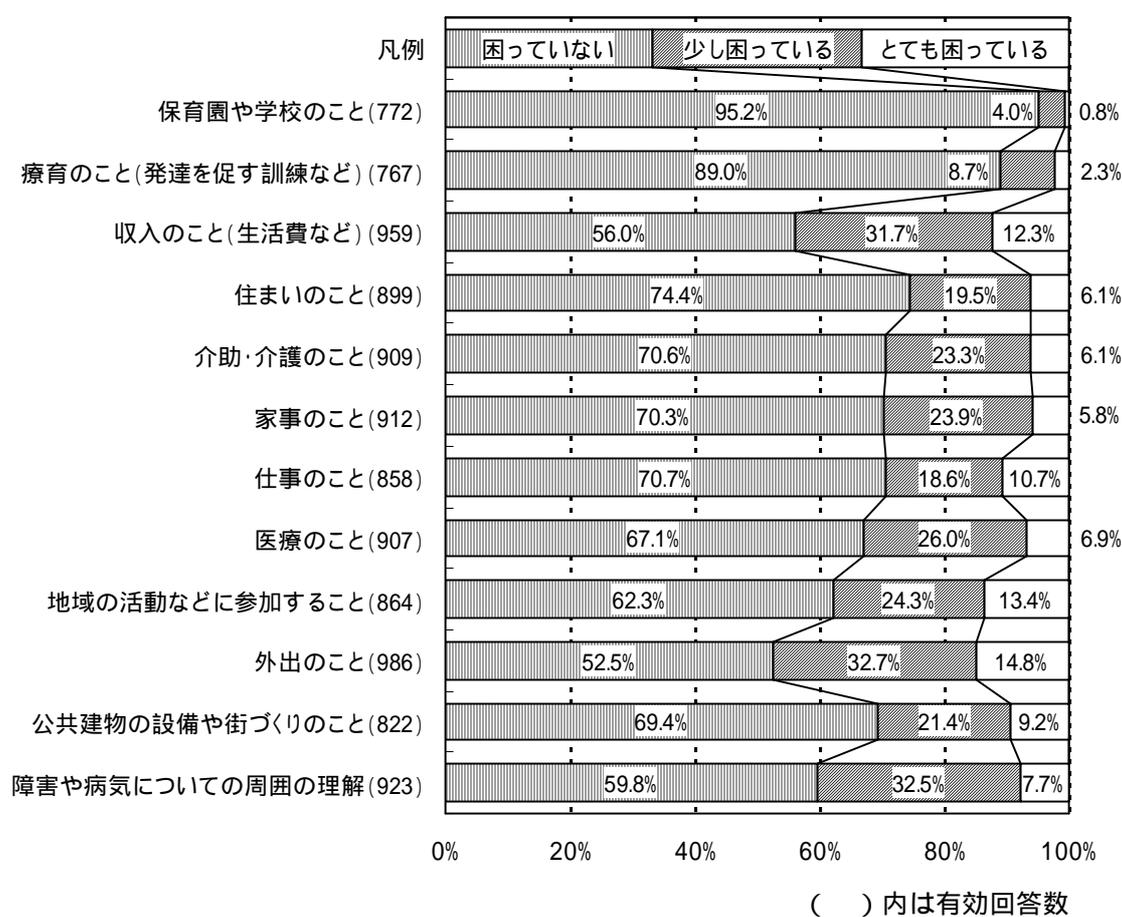
## 療育手帳所持者



## (7) 生活で困っていること

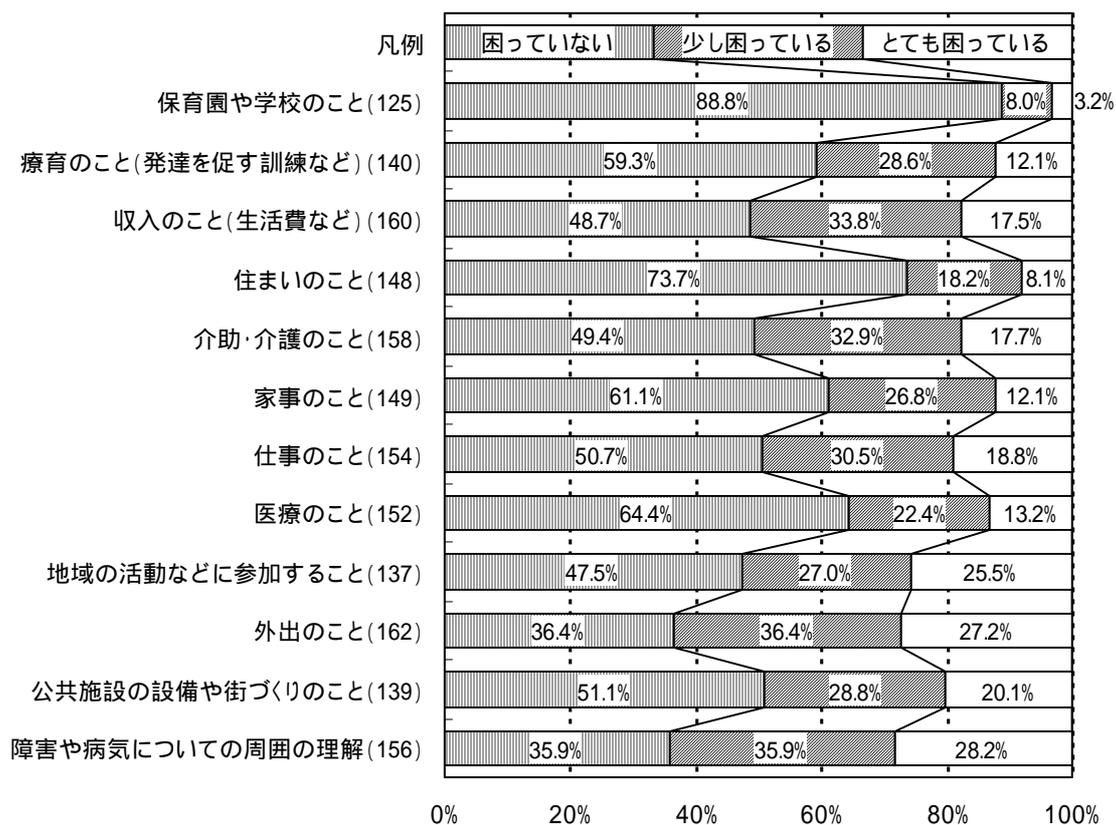
### 身体障害者手帳所持者

「少し困っている」と「とても困っている」を合わせると、「外出のこと」が47.5%と最も多く、次いで「収入のこと」が44.0%、「障害や病気についての周囲の理解」が40.2%、「地域の活動などに参加すること」が37.7%となっています。



## 療育手帳所持者

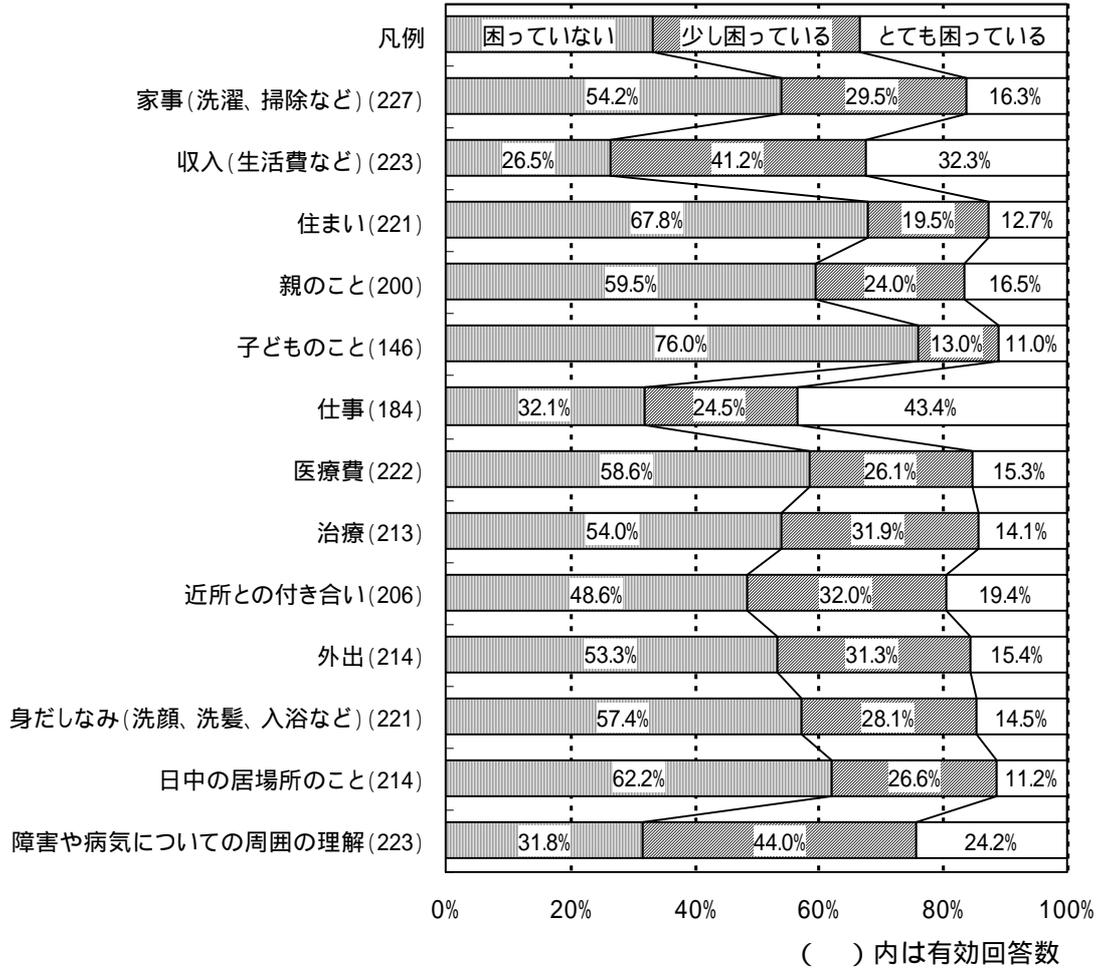
「少し困っている」と「とても困っている」を合わせると、「障害や病気についての周囲の理解」が64.1%と最も多く、次いで「外出のこと」が63.6%、「地域の活動などに参加すること」が52.5%、「収入のこと」が51.3%となっています。



( )内は有効回答数

## 精神障害者保健福祉手帳所持者

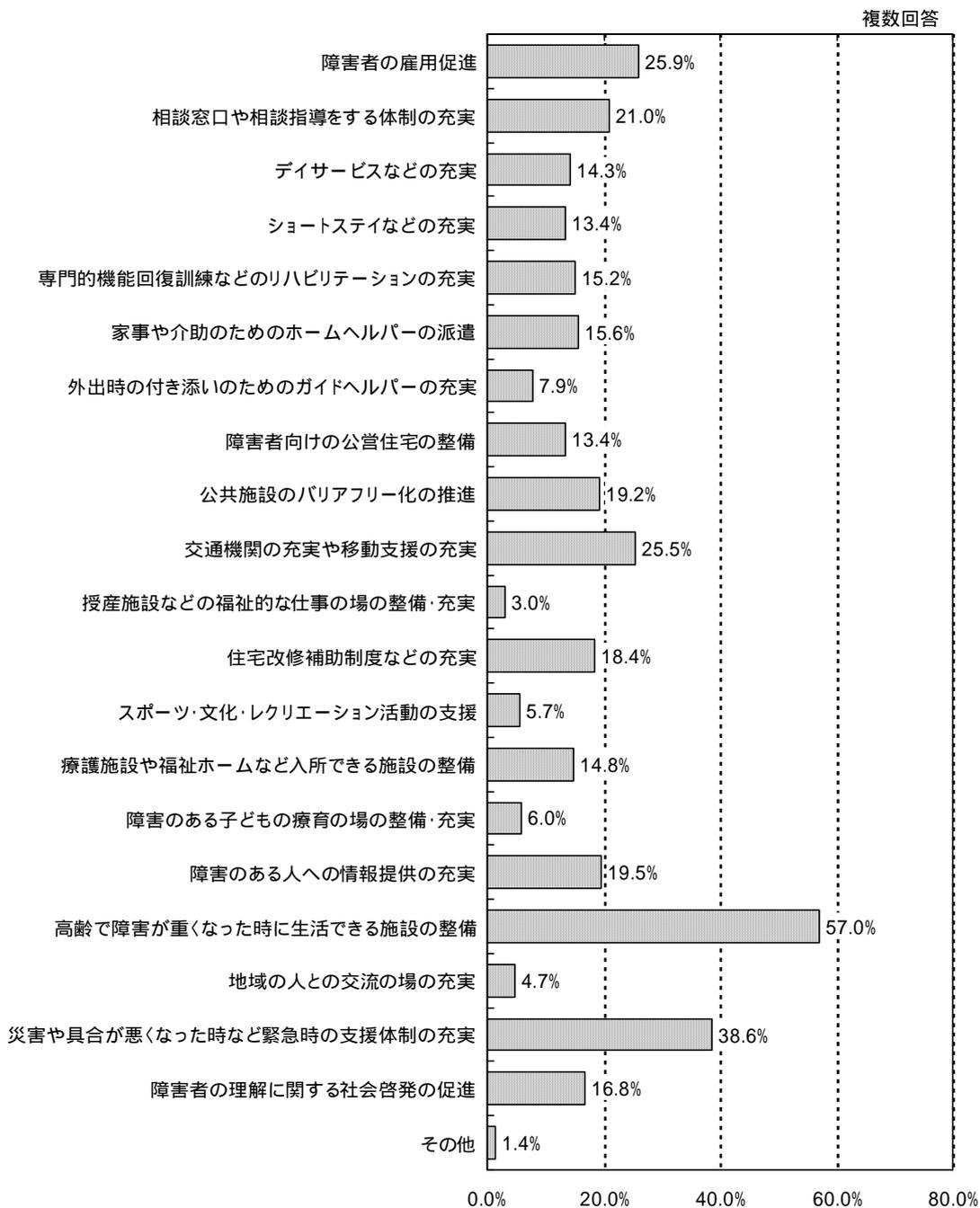
「少し困っている」と「とても困っている」を合わせると、「収入」が73.5%と最も多く、次いで「障害や病気についての周囲の理解」が68.2%、「仕事」が67.9%、「近所との付き合い」が51.4%となっています。



## ( 8 ) 充実すべきと考える障害者の施策

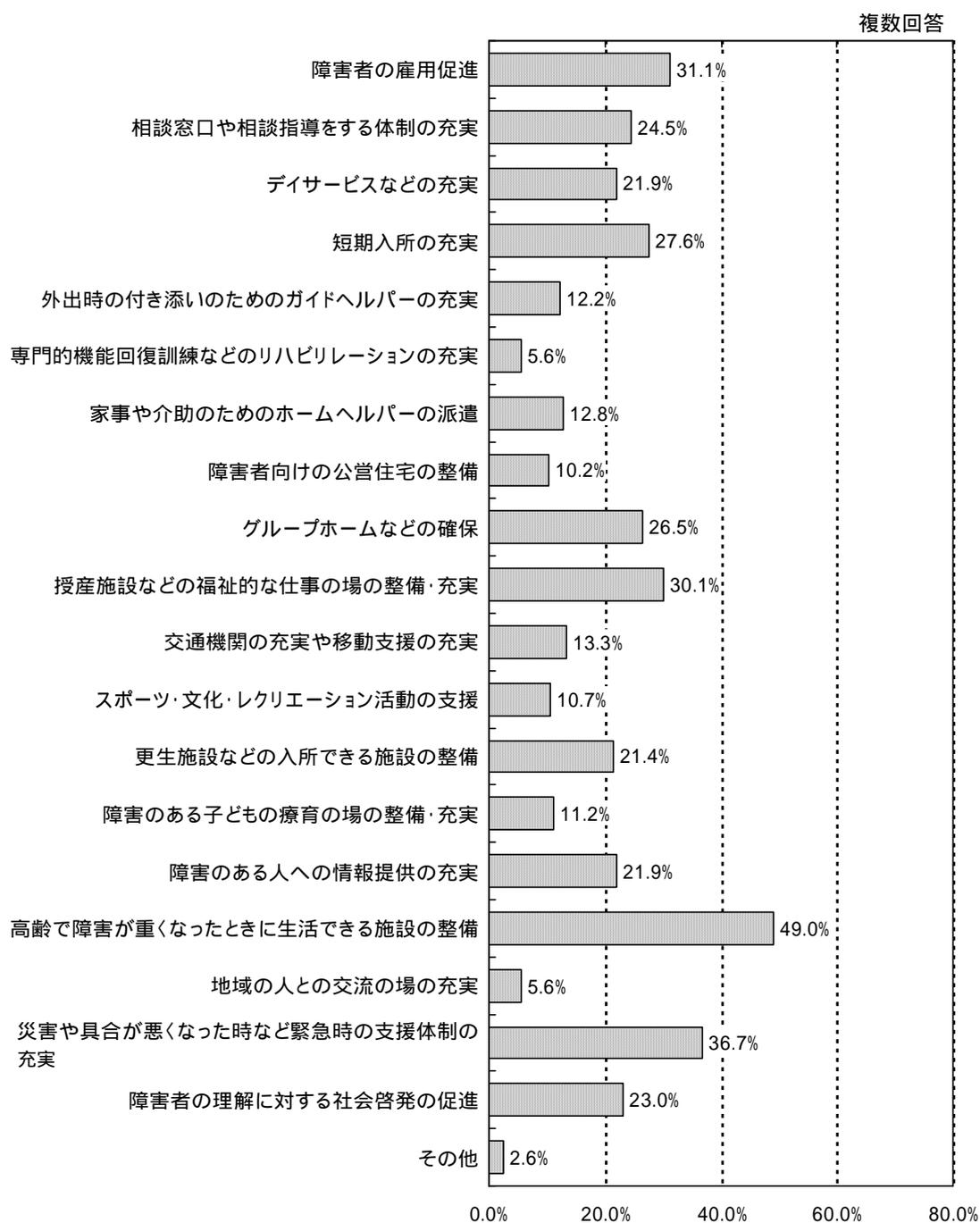
### 身体障害者手帳所持者

身体障害者手帳所持者の充実すべきと考える障害者の施策をみると、「高齢で障害が重くなった時に生活できる施設の整備」が57.0%と最も多く、次いで「災害や具合が悪くなった時など緊急時の支援体制の充実」が38.6%、「障害者の雇用促進」が25.9%、以下、「交通機関の充実や移動支援の充実」が25.5%、「相談窓口や相談指導をする体制の充実」が21.0%の順となっています。



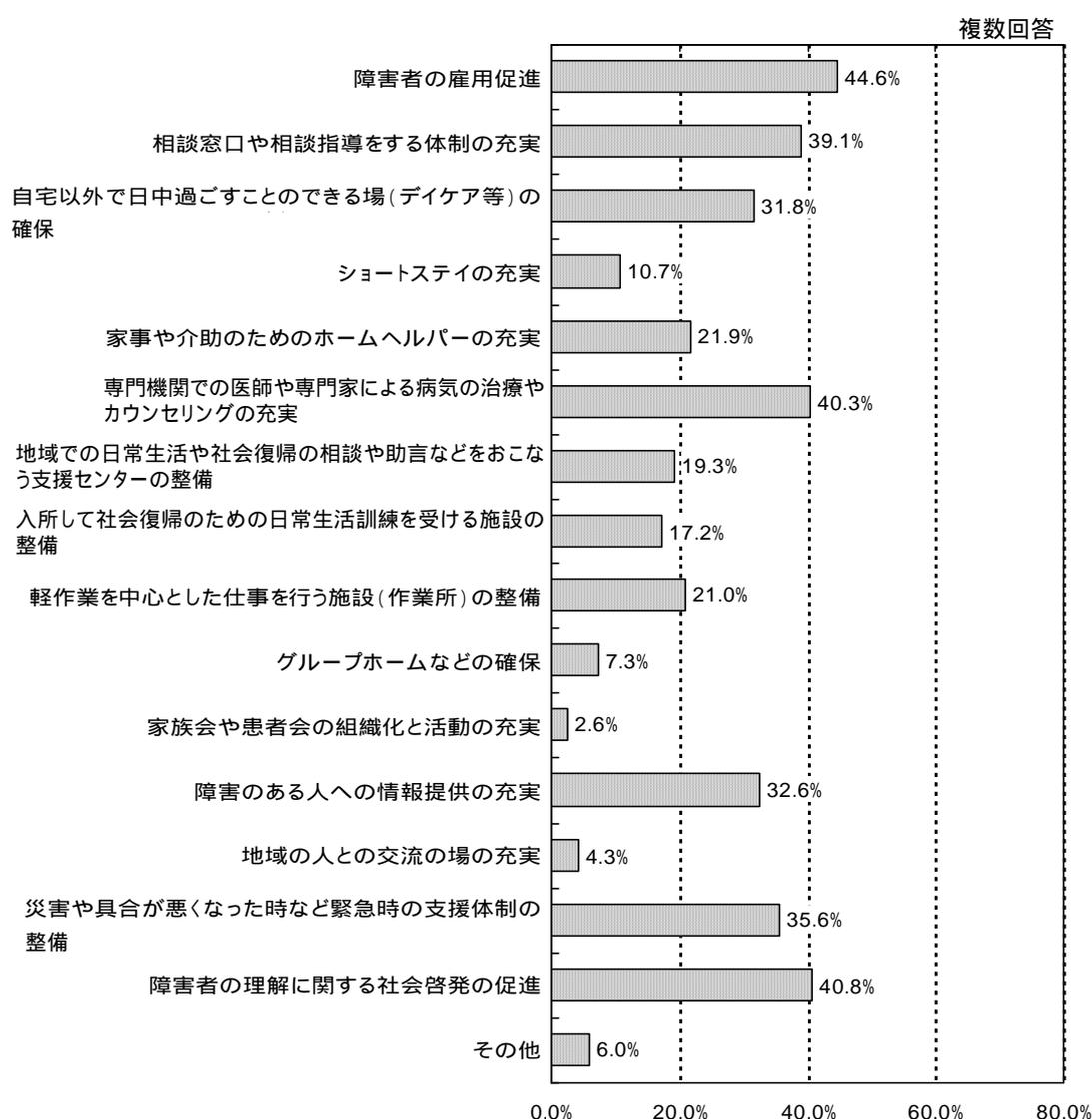
## 療育手帳所持者

療育手帳所持者の充実すべきと考える障害者の施策をみると、「高齢で障害が重くなった時に生活できる施設の整備」が49.0%と最も多く、次いで「災害や具合が悪くなった時など緊急時の支援体制の充実」が36.7%、「障害者の雇用促進」が31.1%、以下、「授産施設などの福祉的な仕事の場の整備・充実」が30.1%、「短期入所の充実」が27.6%の順となっています。



## 精神障害者保健福祉手帳所持者

精神障害者保健福祉手帳所持者の充実すべきと考える障害者の施策をみると、「障害者の雇用促進」が44.6%と最も多く、次いで、「障害者の理解に関する社会啓発の促進」が40.8%、「専門機関での医師や専門家による病気の治療やカウンセリングの充実」が40.3%、以下、「相談窓口や相談指導をする体制の充実」が39.1%、「災害や具合が悪くなった時など緊急時の支援体制の整備」が35.6%の順となっています。



# 障害者関係団体等調査

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、障害者計画の改定にあたり、障害者福祉関係団体等に対し、障害者の実態調査の一環として聴き取り調査等を行い、新たな計画策定の基礎資料を得る目的で実施しました。

### (2) 実施時期

平成15年2月～3月

### (3) 対象団体及び調査方法

障害者関係団体等 30件  
文書照会及び聴き取り調査  
障害者支援ボランティア・NPO 29件  
文書照会（一部聴き取り調査）  
障害者福祉関係施設等 21件  
文書照会（一部聴き取り調査）

### (4) 調査内容

関係団体から障害者や障害者支援に関する現状・課題、今後の支援等について、具体的かつ個別的に調査し計画策定の参考となる情報を収集しました。

各団体等の概要（名称、代表者、設立目的、活動内容等）

各団体等の活動の課題や展望等

団体等の関係する障害者の生活課題等

障害者支援の施策・事業についての提案、意見等

## 2 障害者関係団体からの主な要望

### (1) 身体・知的・精神各障害者関係団体共通

#### 活動上の課題について

- ・ 新しい会員がなかなか増えないので、自分たちの活動をPRし、参加者を増やしていきたい。このための広報の場を設けるなどの活動支援をお願いしたい。
- ・ 活動を維持する人的資源と活動資金が足りないので、ボランティアの養成等支援をお願いしたい。

#### 障害者福祉施策・事業について

- ・ 障害者計画策定委員会に当事者や専門職を加え、計画を公表してほしい。
- ・ 個別の状況に適した相談、対応を進めてほしい。
- ・ 施設やサービスの向上のための取り組みをお願いしたい。

#### 支援費制度について

- ・ 一般市民や当事者の中にまだ十分な理解が得られていない。説明会の開催やわかりやすいパンフレットを作成してほしい。情報提供を積極的に行ってほしい。
- ・ 在宅サービスの指定事業所の拡充を図ってほしい。

#### その他

- ・ 公園のトイレの洋式化など施設のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・ 障害者や親等と話し合う機会を今後ももってほしい。

## ( 2 ) 身体障害者関係団体

### 活動上の課題について

- ・ 活動の幅を広げるため、地区社会福祉協議会との連携が必要である。障害者の社会参加や地域生活をサポートするための活動を行っていききたい。
- ・ 要約筆記の社会的位置づけの向上、公的行事での取り入れ、技術の研鑽の支援が必要である。
- ・ 学校と施設の連携をすすめ、障害者・児の自立と社会参加のため学齢期から卒業後の見通しを持って支援が出来るように情報交換や交流が必要である。

### 障害者福祉施策・事業について

- ・ 手話通訳者を今以上に増やして、公共施設や病院に配置してほしい。
- ・ 要約筆記者の公的派遣を市で実施してほしい。
- ・ 日常生活用具の給付を緩和（耐用年数）してほしい。
- ・ 障害者の就労の支援を行ってほしい。
- ・ 障害者生活支援センターを充実してほしい。
- ・ 卒業後の日中活動を保障するため、通所施設サービスの拡充を図ってほしい。
- ・ 児童に対しての施策、特に医療的ケアを必要とする障害児や重度重複の障害児に対しての施策の強化を望む。
- ・ 緊急時の通学送迎サービスやショートステイを充実してほしい。

### 支援費制度について

- ・ 介護保険同様に専門知識のあるケアマネージャーが必要である。
- ・ 視覚障害者のガイドヘルパーの円滑な利用ができるか不安である。
- ・ 容易にサービスが利用できるよう十分対応してほしい。
- ・ 医療的ケアや介護が難しいこと等によって事業所の受け入れが困難となることが心配である。

## その他

- ・ 緊急災害時の聴覚障害者への告知方法や障害者の避難場所などの危機管理を検討してほしい。
- ・ 公共交通の充実や福祉バスの保護者の利用を可能にしてほしい。
- ・ 福祉向きの市・県営住宅が少ないのもっと増やしてほしい。
- ・ 駅のバリアフリー化をしてほしい。
- ・ スロープの設置工事などに入る前に利用者の声を聞いてほしい。

## ( 3 ) 知的障害者関係団体

### 活動上の課題について

- ・ 障害者の生活の質の向上とは何かについて、保護者、市民とともに考え、共有していくことが必要である。
- ・ 知的障害者の社会参加や文化的取り組みの充実とそれを支えるボランティア等の育成が必要である。
- ・ 成年後見制度について勉強会、見学を通して情報・知識を得ることが必要である。
- ・ 学校と施設の連携をすすめ、障害者・児の自立と社会参加のため学齢期から卒業後の見通しを持って支援が出来るように情報交換や交流が必要である。

### 障害者福祉施策・事業について

- ・ 知的障害者のデイサービス、福祉作業所を拡充してほしい。
- ・ 知的障害を理解し対応できるヘルパーの育成が必要である。
- ・ 知的障害の生活支援センターがほしい。
- ・ 希望の家の内容を充実してほしい。
- ・ レスパイト事業は費用が高いため、市の支援により利用しやすくしてほしい。
- ・ 地域で普通に暮らしていくために、グループホームの建設を促進してほしい。
- ・ グループホーム等の宿泊体験（お泊り訓練）に対して支援してほしい。
- ・ 障害を持った本人たちが、地域の中で、グループホームで暮らしていくには人的援助とバックアップ施設が必要である。

- ・ 障害児・者の「個別支援計画」を作成し、それに基づく地域生活支援システム作りをすすめてほしい。
- ・ 法人の通所作業所を作ってほしい。また、市の作業所を法的認可にしてほしい。
- ・ 障害児も通える学童保育所を整備してほしい。
- ・ 自閉症、学習障害、注意欠陥他動性障害、アスペルガー症候群などの児童生徒への支援が必要である。

### 支援費制度について

- ・ デイサービスや通所できる事業所を増やしてほしい。
- ・ 利用が円滑にできるような情報提供やケアマネジメントなどの支援を充実してほしい。
- ・ 冠婚葬祭、家族の急病などの緊急時に対応できる事業所をお願いしたい。

### その他

- ・ はあとふるライナーを充実してほしい。
- ・ 就職後の職場適応援助者（ジョブコーチ）を充実してほしい。
- ・ 通所施設の職員のより一層の資質の向上をお願いしたい。
- ・ 通所施設の職員と保護者、保護者同志の人間関係をより良いものにしていきたい。

## （４）精神障害者関係団体

### 活動上の課題について

- ・ 精神障害者が安心して過ごせる場、仲間と集えて自己表現できる「居場所」を増やしたい。相談事業にも取り組み地域生活支援センターを開設したい。
- ・ 安定的な施設運営をしていくためには小規模社会福祉法人化を進めたい。

## 障害者福祉施策・事業について

- ・ 障害者（精神）への理解を深めるよう各種事業の展開が必要であり、当事者、家族、関係機関が一体となって意見を出し合って進めていくことが必要ではないか。
- ・ 支援センター、作業所、グループホームをぜひ作っていききたいので、支援していただきたい。
- ・ グループホーム、支援センターなどの社会資源を重複して利用できれば、より生活しやすい環境を整えることができる。
- ・ 当事者が自宅以外に憩う場所や相談できる仲間ができるよう支援してほしい。

## その他

- ・ 公共交通機関（バス等）の割引きができるように支援してほしい。